

# News Letter

Number 16

日本獣医解剖学会報

September 27th, 2000

## 獣医解剖学の将来

日本獣医解剖学会 会長 林 良博

21世紀まであと100日足らずとなった現在、獣医解剖学は次の世紀でいかなる発展を遂げるのであろうか。獣医学教育体制再編の大きなうねりの中で、とすれば臨床や公衆衛生だけが話題になり、解剖学の将来についてはあまり語られることがない。私たち自身が世間に獣医解剖学を発信することが少ないとすれば、それはセコセコした再編の動きに合わせることはないという、老舗の学問に身を置く人間の性であろうか。それとも熱意をもって語ったとしても、世間が冷淡で見向きもしないという諦めが先に立っているのであろうか。私個人についていえば、前者である。現在の再編の動きは、日本において獣医学がどうあるべきか、農学との新しい関係をいかに構築するか、もっと広く生命科学の中でどのような位置を占めるべきか等の重要な論議を棚上げにしたまま、1大学における規模の拡大だけが自己目的化され、どこどこが一緒になるかという政治的論議に終始している感がある。これに水を差すことは、再編そのものに反対していると受け取られる恐れがあり(実際に、そう思っている人がいる)、すこし熱が冷めるまで静観していた方が、熱心に現在の再編を推進している人たちにとっても、私自身を含めた獣医解剖学にとっても益するところが多いと私は感じている。

獣医学の再編をどう思うか。私は、絶対に必要だと思う。体制は、ある理念・目的を達成するために構築されるが、いかなる体制であってもそれは必ずや錆びついてくる。理念は不滅であっても、体制は不滅でない。むしろ理念をその時代に適用させるためには、常に体制を変えるという努力を怠るべきでない。現在の再編が、臨床や公衆衛生の充実という側面から推進されていることは無理もない。これまでの日本の獣医学教育において、臨床や公衆衛生があまりにも貧困な状況に置かれていたからである。それがいかに時代の要請にそぐわないものか、臨床や応用獣医学だけでなく、基礎獣医学に身を置く者としても容易に理解できる。しかし獣医学の再編が、基礎獣医学を削って臨床・応用獣医学を充実させるという内向きな戦略で進められるとするならば、それは断固として反対である。それは獣医学の可能性を過少評価している。日本の獣医学に課せられている役割も理解していない。獣医解剖学は、動物界全体を対象とした比較解剖学を内包しており、その重要性は計り知れない。しかし若い獣医解剖学者が、いま流行(はやり)の分子生物学的研究に熱中することを妨げることはない。比較解剖学は骨を見ているだけの学問ではないのである。学問はその本質として、より根源的なものへと向かう。形態の根源、さらに進化の根源を解く鍵が遺伝子にあると多くの研究者が信じていることには、現時点で妥当性がある。肉眼解剖学が虐げられるべきでないと同様に、分子解剖学も継子扱いすべきではない。もちろん行きすぎた偏重は避けなければならないが、若い人たちの意欲を削ぐような如何なる非難も有益ではない。

私がかつて研究室の学生に対して、「教授室の机の上に糞さえしなれば、何をしてもかまわない」と言ったことがある。学生は最大限の自主性・自律性を保障すれば、限らない可能性をもっているという意味であるが、それは彼らの成果をみるかぎり、正しかったと思っている。「解剖魂」さえ失わなければ、解剖学教室の人間はなにを目指してもかまわないし、また面白いと思ったことはトントンやればよいというのが東京大学の獣医(家畜)解剖学教室の伝統であるし、これからもその伝統を保持し続ける証として、教室の名前に「解剖学」を冠することを止めないであらう。

私の所属する教室の話が、日本の獣医解剖学の将来を語ることにならないことは十分承知している。むしろ獣医解剖学会に属するすべての教室・組織・個人が、それぞれの個性をもって楽しく競い合うことが、獣医解剖学の発展につながることを信じている。会員各位の益々のご健勝とご発展を祈ります。

## 第130回 日本獣医学会

(2000年10月7日~9日) 会場: 大阪府立大学

10月8日(日)

ポスター発表(13:00-14:00) ポスター会場(体育館)

座長: 村上隆之(宮崎大)

P1-1: 教育用標本(プラスチック標本)の作製方法とその応用

P1-2: イヌの腰動脈の分岐に関する肉眼解剖学的検索

P1-3: マレーグマ (*Helarctos malayanus*)、ホッキョクグマ (*Ursus maritimus*) およびヒグマ (*U. arctos*) 後肢の比較解剖

P1-4: CT-SCANNERを用いた新生ウマの頭頸部奇形の観察

座長: 小川 和重(岩手大)

P1-5: 鋤鼻受容細胞における変性および回復様式の定量的解析

P1-6: G蛋白を指標とした鋤鼻ニューロン投射パターンの比較

P1-7: ビタミンA過剰投与時における軟骨内骨化の変化に関する研究

P1-8: ネコの骨組織におけるレクチン組織化学的研究

座長: 北村延夫(帯広畜産大)

P1-9: ラット子宮間膜腺形成過程における線維芽細胞様間質細胞の動態

P1-10: ネコの肛門周囲腺に関する形態学的研究

P1-11: スイギュウ 十二指腸腺の形態学的研究

P1-12: イヌの舌有郭乳頭における炭酸脱水酵素の組織局在について

座長: 神田尚俊(東京農工大)

P1-13: 形成外科のための犬の皮膚の臨床解剖学的検討

P1-14: 母体慢性アルコール摂取がラット胎子臓腑内分泌部の発達に及ぼす影響

P1-15: ウサギ胎盤形成における母体側組織の変化

座長: 福田勝洋(名古屋大・農研)

P1-16: 鶏坐骨神経再生時における細胞接着分子gicerinの関与

P1-17: 細胞接着分子gicerinの同種親和性結合能はウズラの網膜組織形成に重要である

P1-18: 新規アスパラギン酸プロテアーゼ napsin mRNAのマウスにおける発現様式

P1-20: Role of gonads in sex differentiation of growth hormone-releasing hormone (GHRH) and somatostatin (SS) neurons in mouse hypothalamus during postnatal development

一般講演(14:20-15:50) 第3会場(経済学部1号館)

座長: 山田純三(帯広畜産大)

3A-1: 各種動物におけるマスト細胞の染色性と分布

3A-2: 食虫類スンス染色体ヘテロクロマチン領域に存在するマイクロサテライト(TTC)nの局在性:Sister Chromatid Printing 仮説

3A-3: ジャイアントパンダの前肢端把握機構に関する三次元画像解析

座長: 月瀬東(日大)

3A-4: The morphology of the Iridocorneal angle of the eye of the buffalo (*Bos bubalis*): A light and scanning electron microscopic study.

3A-5: 食虫類の精索と精巣筋嚢の形態学的研究

3A-6: オオアシトガリネズミの精子発生周期とレクチンの結合性に関する形態学的研究

座長: 鈴木義孝(岐阜大)

3A-7: キタホソオツパイの副腎

3A-8: DBA/2マウス腎臓の発情周期による組織計測学的観察

3A-9: オオマメジカおよびジャウマメジカ赤血球の微細形態

座長: 上原正人(鳥取大)

3B-1: ラット喉頭の味蕾における炭酸脱水酵素の分布

3B-2: マウスロ蓋ヒダ形成配列に関連するPAL31のmRNAの発現分布

3B-3: ゴールデンハムスター精巢におけるSmad2, Smad3の発現と制御

3B-4: Dnmt1タンパクの成体ラット脳における細胞内局在

座長: 谷口 和之(岩手大)

3B-5: 消化管におけるDiazepam Binding Inhibitor (DBI)の発現と機能に関する研究

3B-6: ラット骨髄における赤血球形成の調節機構としてのアポトーシスによる細胞死の有無

3B-7: 遺伝性腎疾患(ICGN)マウスにおける貧血とエリスロポエチン産生能の関連性

座長: 真鍋昇(京大・農研)

3C-1: 新生子イヌの角膜成熟に伴う形態学および生化学的变化

3C-2: ウマの浅指屈腱の形態学および生化学的性状

座長: 竹花一成(酪農大)

3C-3: ネコの毛、毛包および汗腺における複合糖質の局在について

3C-4: ラット可移植性腫瘍における細胞接着分子gicerinの発現

3C-5: 遺伝性腎疾患(ICGN)マウス腎におけるラミニンの異常について

座長: 杉田昭栄(宇都宮大・農)

3D-1: 脊髄小脳路ニューロンの小脳皮質投射部位について

3D-2: ニワトリの脊髄における一酸化窒素産生神経細胞の分布

3D-3: ラットの気管および気管支の神経叢の構築

## 人物往来

### 第8回 獣医解剖サテライトフォーラム 「病態研究における形態学の貢献」

日時:10月8日(日) 18:20~19時20(講演時間は45分です)

会場:第3会場(経済学部1号館)

座長:大迫誠一郎

演題:ヘリコバクターピロリ感染スナネズミモデル -胃炎から胃癌まで-

10月9日(月)

### ワークショップ「内分泌系の形態」

日時:9日(月)9:00-10:45

会場:第9会場(工学部8号館1階)

コーディネーター:佐々木 文彦(大阪府大), 岩永敏彦(北海道大)

WS4-1: 頸動脈小体と血管壁に分布するグロムス細胞 -

-発生・分化、機能および形態 ○亀田美子(北里大・解剖)

WS4-2: プロホルモンの細胞内プロセッシングの分子細胞形態学

○田中滋康(静岡大・理)

WS4-3: ラット胎子副腎の発達

○山本雅子、有嶋和義、江口保暢(麻布大・解剖)

#### 一般講演 (14:40-16:30)

座長:武藤一郎(北里大)

3E-1: in vitroにおいてepidermal growth factor(EGF)が胎子膵島B細胞の新生に及ぼす影響

3E-2: ミンクグジラ膵臓の比較形態学

3E-3: 胎仔期にTCDD暴露された雄ラットの腹側前立腺内5 $\alpha$ -ReductaseおよびAndrogen ReceptorのmRNA発現変化

3E-4: ラットにおけるTestosterone産生とステロイド合成酵素遺伝子の発現に対するEstradiol Benzoateの影響

座長:木曾康郎(山口大)

3E-5: ニワトリの膵島内介在導管に関する電子顕微鏡的研究

3E-6: ウシの膵臓器における上皮小体ホルモン関連蛋白(PTHrP)遺伝子発現の局在

3E-7: 連続発情ラット子宮における性ホルモン受容体発現の変化

3E-8: 水牛(*Bubalis bubalis*)の精巣におけるインヒビンサブユニット(a, bA, bB)の免疫組織化学的局在

座長:林良博(東京大)

3F-1: 栄養膜細胞の分化におよぼすレチノイン酸の影響の解析

3F-2: A histological study on the pregnant uterus of the tree shrew (*Tupaia javanica*)

3F-3: ウシの子宮と胎盤におけるガストリン放出ペプチド(GRP)の免疫組織化学的分佈

#### 【獣医解剖学会理事会】

10月9日 12:00~13:00 会場:経済学部1号館・

教授会室(経済学部2階)弁当を用意しています(1,000円)。

#### 【獣医解剖学会総会】

10月9日 16:30~17:00; 会場:経済学部1号館第3会場

#### 【獣医解剖学会懇親会】

総会終了後、バスにて会場までお送りします。時間があれば、堺市内の名所をご案内する予定です。多数のご参加をお願い申し上げます。

日時:平成12年10月9日(月)夜(二次会も企画しています)

場所:ホテルサンルート堺(TEL: 0722-32-0303)

担当:大阪府立大学大学院農学生命科学研究科獣医解剖学研究室

#### 【獣医学雑誌の編集委員になって】

佐々木文彦

本年5月より獣医学会誌の編集委員をおおせつかり、今更のように山田先生、谷口先生の偉大さに感服しています。しかし、その様にばかり思っていられないので自分自身の勉強のため、獣医解剖学会へのご返しのまねごとのために努力するつもりです。現在6つの論文(1つは外国からの投稿論文)を審査させていただきました。4つが採用されました。審査員の先生達から適切なコメントを頂けるのに感謝しています。慣れるまで、ご迷惑をお掛けするかも知れませんがご援助のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 【遺体解剖学継承委員会からの連絡】

遠藤秀紀

遺体解剖学継承委員会(委員長・遠藤秀紀)は、肉眼解剖学の現状を分析し、それをもとにアナトミーの将来像を提示するアクションプランです。肉眼解剖学の研究と教育に関する現状を調べるため、会員の皆様に、近日中にアンケートを配布する計画を進めています。ご多忙とは存じますが、皆様の解剖学に対する生の声をうかがいたく、回答にご協力をお願い致します。

◆ 日本大学生物資源科学部獣医学科獣医組織発生学研究室、岡野真臣教授におかれましては平成12年7月10日を以って、日本大学を定年ご退職になりました。先生は本学会の前身であります日本獣医学会解剖学分科会の会務を長い間努められ、分科会の発展に寄与されました。また、嗅覚器の超微形態学的研究で昭和57年に獣医学会賞を受賞されております。なお、先生は来年3月まで同大学で組織学と発生学の教育を継続されます。岡野先生のこれまでの本学会への大いなる貢献に感謝しますと共に、先生のご健勝を祈念いたします

◆ 名古屋大学動物形態情報学研究室の蛭薙観順助教授が、新設の名古屋大学博物館の助教授として7月1日付けにて移動されました。博物館はまだ建物もなく、間借りする資料館も未整備のため、当分は今までと同じ動物形態情報学研究室に同居とのことです。

◆ 岐阜大学山本欣郎先生は10月から1年間文部省の長期でドイツ(ギーゼン)のJustus-Liebig-Universityの医学部へ留学されます。ご発展を!

◆ 国立科学博物館の佐々木基樹先生は10月1日付けで帯広畜産大学家畜解剖学教室の助手に発令予定です(9月21日の教授会で承認)。

#### ● 訃報 ●

酪農学園大学岩佐憲二助教授は、7月30日大学にて午前10時40分クモ膜下出血によりご逝去されました。享年59才。ご冥福をお祈りいたします。合掌!

#### 獣医解剖・組織・発生・家禽学用語(仮題)および 獣医組織学(改訂版)の編集状況

新版として、日本語・英語・ラテン語により構成された解剖の用語集を年内発刊に向けて編集を進行しております。現在、解剖学用語、家禽学用語は組み版中、発生学用語は学窓社にて校正中、組織学用語は組み校正を終え谷口先生ご校閲中で同時に監修の牧田先生にもご送付しております。11月初旬にはご校閲を終えられるように致したいと、考えております。

獣医組織学は9月中に執筆者の改訂原稿をいただくことになっており、来春、発刊すべくがんばります。

#### ◎ 名簿訂正 ◎

平成12年版の日本獣医解剖学会の会員名簿に誤りや変更がありますので、これまで掌握している分をお詫びし、訂正いたします。記載事項に変更等がありましたらお知らせください。

P2: 北大橋本先生のEメールアドレスを hashimo@vetmed.hokudai.ac.jp に訂正

P6: 東北大学山口教授のEメールアドレスを ty1010@bios.mars.tohoku.ac.jp に訂正

P8: 小川健司氏のFaxの前のsを削除

P9: 町田先生の研究所名の後に「人材研究基盤部実験動物育種・繁殖研究室」を追加

P12: 農工大学の郵便番号を〒183-8509 に訂正

P14: 恒川先生の自宅住所を「自宅:〒194-0012 東京都町田市金森1721-1-206 電話:042-799-2848」に変更。

P17: (個人会員) 城下先生の勤務先を「相模が丘動物病院」、Eメールアドレスを shiroshita@sagamigaoka-ac.com に訂正

P31: 大分県と大分医科大学解剖学教室をゴシックにする。

#### ◆ 編集後記 ◆

News Letter No. 16 を、やっとの思いでお届けします。いつも発行が学会直前になり申し訳ありません。皆さんのお役に立てるように内容の充実を図りたいのですがなかなか原稿が集まらず苦労しています。今回は会長に格調高い挨拶文をいただきましたので少し格好がつかしました。感謝! 獣医解剖学会のホームページアドレスは <http://jvm2.v.m.a.u-tokyo.ac.jp/java/> です。ご活用ください。原稿をお寄せいただいた方々に感謝申し上げます。感謝!(純)

#### 大好評発売中!

##### ◎ 『ひとりて学べる獣医学英語』

B5変型判/368頁 鷲巢 誠 監訳 定価 15,750円

##### ◎ 『明解 哺乳類の生理学』

B5判/415頁 定価 5,250円 鈴木勝士・徳力幹彦 監訳

##### ◎ 『哺乳類の生殖生物学』

B5変型判/320頁 高橋迪雄 監修 定価 5,250円

株式会社 学窓社

〒113-0024 東京都文京区西片 2-16-28

TEL: 03-3818-8701, FAX 03-3818-8704,

E-mail: gakusosha@v.email.ne.jp